

3. 技術ノート

道東地方におけるエゾシカをめぐるできごと —新聞報道からみたワシ類の鉛中毒と鹿防護柵等—

二村 一男

はじめに

北海道東部には、およそ12万頭のエゾシカが生息していると推定され、近年農林業被害が深刻化している。そこで道は、1998年からの2年間で6万頭に削減する保護管理計画に基づき、狩猟の制限を大きく緩めた。特に、道東四支庁（釧路・根室・十勝・網走）管内では捕獲数制限を1人1日1頭から2頭に緩和、猟期も3カ月間延長した。これにより有害駆除を含む雌ジカの1998年の捕獲を前年の1.5倍の3万頭前後とみている。このようにエゾシカの捕獲数は例年になく増加した。捕殺されたエゾシカの死骸は、持ち帰りまたは地中埋設が原則だが、重量物のため運搬に困難な場合等は、山中に放置されることが多く、これらは野犬、キタキツネ、トビ、カラス類、ワシ類の餌になる。なかでもワシ類は、肉に残留した鉛弾を誤飲することで鉛汚染により中毒死することが多い。

この他、エゾシカは、生息地に隣接している農地や牧草地に出没して食害するため、防護柵の取設がすすめられている。さらに鉄道や幹線道路ではエゾシカと衝突する列車や自動車の事故が多発している。

このようにエゾシカをめぐるできごとを「①ワシ類の鉛中毒②エゾシカ防護柵③列車や自動車との衝突事故」について新聞記事を資料として若干の考察をした。

考 察

資料に用いた新聞記事は、北海道新聞の1998年6月から1999年7月までの36件で付表1～2にまとめてある。そのほか関連する参考資料を中心に考察した。

1. ワシ類の鉛中毒問題の経緯

本報のワシ類とはオジロワシとオオワシで国の天然記念物に指定されている。オジロワシの現状は白木¹⁾によれば、生息数は世界で5000～7000つがいで、このうちの一部が北海道で繁殖し、道内での繁殖数はわずかながら増加傾向にあり、繁殖成績も安定している。厳寒期の餌の現状は、75%が水産加工場、25%が雑魚等と人為的な餌に依存しているとのべ、シカの死骸などの得やすい餌があれば、それを容易に利用することになり、注意が必要であるとのべている。また、オオワシについて、中川²⁾によれば、ロシアの極東地方で繁殖し、多くは秋にサハリン経由で北海道に渡来する。1998年2月の調査によればオオワシとオジロワシが1648羽であった。80年代は、知床半島の羅臼に総数の90%が集中していたが、餌としていたスケソウダラ漁の不振で分散しはじめ、山間部や白糠、阿寒等の内陸で見られるようになった。これはエゾシカの死骸に依存している状況を示しているとのべている。ちなみに著者は、1998年4月23日、本学の北海道演習林白糠区（白糠町和天別）で鳥類の調査中にオジロワシの成鳥1羽を観察している。

鳥類の鉛中毒は「ワシ類中毒ネットワーク」によれば、1996年2月に網走市で拾われたオオワシの死骸が鉛中毒と判明したのが最初であった。1997年から網走、釧路管内で死亡したワシの胃の内容物からシカの毛が見つかり、さらに胃のX線写真から鉛の破片が多数見つかり、この時点で

エゾシカの死骸と関係していることが明らかになった。さらに、1997年12月から1998年5月にかけて北海道内で18羽ものオオワシとオジロワシが鉛中毒で死亡した。ワシ類の鉛中毒を防ぐ方法は、鉛弾を銅弾に切り替えることと、死骸を持ち帰るか、現地で地中に埋めることである。阿寒町では狩猟が始まると共にエゾシカステーション（鉄製の檻の形をした回収箱）が設置されたが、回収された死骸は460kg程度（約5頭分）であった。このように狩猟者に回収の義務化が定着するには時間がかかりそうである。

今期のエゾシカ猟が終わったが予想どおり銅弾使用、死骸回収は普及せず課題を残し、市民グループは、鉛弾の全面規制を訴えている。釧路市で「ワシ類保護管理国際シンポジウム」が開かれ、専門家からは鉛中毒は、①銅弾移行で解決できる②シカ放置は160頭以上③銅弾の性能は、そんな色合いなどの意見が出され、さらに「ハンターの配慮が重要」とされた。3月、道議会ではワシ類鉛中毒死急増の実態をふまえた調査を行うことを決定した。4月、環境庁は、道内で2年後に鉛ライフル弾禁止を決めた。

植田³⁾は、鉛中毒を関連させたコンピュータシミュレーションの大まかな予測では、50年間でオオワシの個体数は半減してしまうという結果が出たとのべている。銅弾の安全性には疑問はあるものの鉛弾より毒性が低いことから切り替えが進むことが望ましく、今後は安全性の高い材質の開発が望まれる。

2. 農作物、牧草の食害対策としてのシカ防護柵取設

エゾシカの越冬地とされる白糠丘陵周辺では、農作物や牧草の食害が深刻になり、白糠町のエゾシカ被害対策協議会が地域全体を囲む広域防護柵を取設した。その結果、被害額が前年度より1億円減少したことを報告した。防護柵は、1998年8月から被害が目立つ和天別、茶路地区に設置し、最終的には102kmを設置する計画でこれまでに54kmが整備された。本演習林白糠区では林地に隣接する牧草地沿いにおよそ3.1kmが設置されている。白糠区では、数年前からエゾシカによるハルニレ、オヒョウニレなどの大径木を中心に剥皮被害が多く、さらに一部では、林床のミヤコザサがほぼ食べ尽くされ、裸地状態の林地もある。現在調査区を設け被害の実態調査や植生遷移の調査を実施している。また、古本浩望技官によれば、柵取設後、エゾシカを目撃するこがやや少なくなり、ヒグマが柵の近くにきて引き返した痕跡を確認した。著者も牧草地でエゾシカの母子群が柵のため山に戻れず柵沿いを右往左往しているところを2度目撃したことがある。このように防護柵が大型動物の「けもの道」を分断していることは確かである。

3. エゾシカとの衝突事故

道警釧路方面本部によれば、1998年度にエゾシカが関係した交通事故は580件で死亡事故が3件発生したほか9人が重軽傷を負った。発生場所も釧路支庁管内が5割、道路別では国道が7割を占め、厚岸町内の国道44号の事故が多かった。時期は、日没の早い10～12月が5割、夜間が8割を占め、夜行性のシカが活動を始め、交通量の多い薄暮時に5割の事故が発生している。対策として、ドライバーは常にスピードは控えめにすることである。

JR北海道釧路支社によれば、エゾシカと列車衝突事故は、484件発生し、過去5年間で最も多かった。場所は、越冬地が点在する花咲線（根室本線東釧路～根室間）での事故が200件と最も多く、次いで釧網本線が134件で、駅間では、越冬地の標茶町塘路～茅沼間が33件で最も多かった。時間別では、道路と同様、午後4時から午前1時までが84%を占めた。この事故によるダイヤの乱れや車両の破損は無いという。

まとめ

この1年間エゾシカ関係の記事が新聞に数多く報道された。なかでも著者の最大の関心事は、エゾシカの大量駆除→駆除死骸の放置→内陸部に分散したワシ類の格好の餌となった→銃弾によ

る鉛中毒→鉛弾から銅弾への切り替え指導→道内2年後の鉛ライフル弾の禁止であった。ここまで行政的に早く進んだのはシンポジウムなどを開催した「ワシ類鉛中毒ネットワーク」等の市民グループの地道な努力が大きいと思われる。

農作物などの被害対策のエゾシカ防護柵について、北海道・地方自治体・受益者の農家負担による取設後の効果は大きかった。しかし、今後、柵による大型動物の「けもの道」の分断が懸念される。

エゾシカとの衝突事故につて、列車事故の回避は、徐行運転であり、自動車事故は、ドライバーのスピードダウンと注意運転が第一であろう。

これらエゾシカをめぐる問題について、今後も継続して経過を見守りたい。

引用文献

- 1) 白木彩子 (1998) オジロワシの現状. ワシ類鉛中毒ワークショップ. 3
- 2) 中川 元 (1998) オジロワシの現状. ワシ類鉛中毒ワークショップ. 3
- 3) 上田睦之 (1998) 野鳥からのSOS 野鳥を脅かす鉛中毒. 野鳥. No.615. 36~38

付表－1 北海道新聞

年. 月. 日	主 見 出 し	副 見 出 し
1998. 10. 6	厚岸町, 使用自肅求める	環境ホルモン含むエゾシカ忌避剤 漁業への影響も懸念
10. 14	ワシ類を全道一斉調査	道猟友会 来年1月15日鉛中毒防止で初
10. 25	保護管理めぐり論議	エゾシカと共存考えシンポ 札幌
10. 31	ワシ鉛中毒消えぬ不安	エゾシカ猟あす解禁 進まぬ銅弾切り替え・死がい回収は困難も
11. 2	銅弾使用は少数派	エゾシカ猟, 全道一斉に解禁 止まらない? ワシ鉛中毒死 ハンター「入手難」「威力小さい」
11. 14	初回は460キロ回収	エゾシカステーション 阿寒, 一般廃棄物として処分
1999. 2. 1	陸別でシカ急増, 近隣から流入か	防護フェンスのとばっちり? 4年で生息数3.6倍に
2. 1	捕獲数増加の見込み	今期エゾシカ猟終了 銅弾使用・死がい回収普及せず 課題残す
2. 1	ワシ類保護へなお課題	今期エゾシカ猟終了 依然多い死がい放置 市民団体鉛弾全面規制訴え
2. 2	被害防止の道探る	エゾシカ協会が設立総会
2. 4	過去最高の580件に	昨年のシカ関係の交通事故 道警釧本管内「死亡」も3件発生 薄暮時に約半数が集中
2. 12	ワシ鉛中毒早急に対策を	釧路で国際シンポ ◎銅弾移行で解決できる ◎シカ放置は160頭以上 ◎そんな色ない銅弾の性能
2. 12	ハンターの配慮重要	
2. 18	シカ食害1億円減	広域防護さく設置の白糖 農作物の状況対策協が報告
2. 19	管理計画のデータに	ワシ鉛中毒 米の専門家提言 釧路でシンポ 釧路管内道, 24日からエゾシカのヘリ調査
2. 24	生きるためオオワシ鉛中毒の”現場”	
2. 25	オオワシ鉛中毒死?	きょう解剖
2. 25	エゾシカが減少?	道環境センター ヘリ調査始まる
2. 26	10年で50頭に間引き	洞爺湖中島のエゾシカ200頭 対策協2度目, 時期は未定
2. 26	オオワシまた鉛中毒死	
3. 4	道, 鉛弾規制を検討	道議会予特委 シカ猟用のライフル銃
4. 14	ワシの鉛中毒死急増実態を調査	道が決定 シカ猟の銃弾関係を解明
4. 21	鉛ライフル弾禁止	エゾシカ猟 環境庁 道内, 2年後に「重い腰上げた」 市民団体は規制を歓迎

付表－２ 北海道新聞

年. 月. 日	主 見 出 し	副 見 出 し
4. 22	エゾシカ捕獲過去最高	昨年度の釧根 有害駆除で1万4千頭 道が奨励，雌増加
5. 15	越冬エゾシカ大量死	知床 3日間調査死体106頭 えさ不足深刻
5. 21	「鉛弾上回る威力」	エゾシカ猟の代替銅弾実験 市民グループ
5. 27	捕獲7万頭超す	エゾシカ 今期 道推計 猟期延長で2万頭増
5. 27	さく600キロ	シカに”壁”美幌，津別・東藻琴と接続 食害対策で連携 来年度着手
6. 1	78%が鉛中毒	ワシ死体この半年道が調査前年より9ポイント上昇
6. 1	道内全域にオジロワシ	道猟友会が初の分布調査 オオワシに匹敵 目立つ内陸への移動
1999. 6. 1	「銅弾」使います	道猟友会南宗谷支部 道内初，10月から道が方針
6. 9	雌ジカ狩猟区を拡大	上川管内など19町村
6. 15	今冬の鉛中毒死25羽	オオワシとオジロワシ昨年より7羽増
6. 15	2年連続で減少	道東4管内のエゾシカ農業被害額 狩猟などの捕獲数増で
6. 17	エゾシカの列車事故急増	昨年度，JR釧路支社管内 花咲線で発生日立つ 過去5年で最高484件 10－3月に集中
7. 14	シカ死体 処理追いつかぬ	道の個体削減計画で逆に急増 連携にまずさ 縦割り行政に批判 道東の自治体焼却は難しく埋設に抵抗感